

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)和泉市あゆみ野一丁目計画新築工事	階数	地上4F
建設地	大阪府和泉市あゆみ野	構造	S造
用途地域	準工業地域、防火地域 指定なし	平均居住人員	100人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年7月 予定	評価の実施日	2024/4/2
敷地面積	50,471 m ²	作成者	伊藤 正澄
建築面積	26,656 m ²	確認日	2024/4/5
延床面積	96,526 m ²	確認者	伊藤 正澄



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.7 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR のスコア = 3.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。 ライフサイクルCO ₂ 排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。		特になし
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
開口部遮音性能:T-2。 建築物衛生法を満たす換気量の1.2倍となっている。	耐震クラスA 階高:5.9m。 [壁長さ比率] < 0.1 床荷重: 14,710N/m ²	特になし
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
BPI _m =0.61。 [BEI _m] = 0.41	節水マなどに加えて、節水型便器も採用している。 LGSとOAフロアを使用している。 ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	燃焼機器を使用していない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府の重点評価(結果)

Osakafu-新築・既存 2024V1.1

【建物概要】 建物名称		(仮称)和泉市あゆみ野一丁目計画新築工事					
建設地		大阪府和泉市あゆみ野					
用途/区分		工場 事務所					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					A	
①	CO2削減					4	
②	みどり・ヒート アイランド対策					2	
③	断熱性能					5	
	<small>建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル</small>	<small>住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分</small>				評価対象外	
④	エネルギー消費性能					5	
	<small>建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル</small>	<small>住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分</small>				評価対象外	
						4	
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
再生可能エネルギー 利用施設の導入状況		太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						報告しない	
【評価項目】							
項目	評価内容					スコア	評価
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮					4.2	4
② みどり・ヒートアイランド対策							
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出					2.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3.2 敷地内温熱環境の向上					2.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環境 2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制					5.0	5
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化					5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用					3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。					報告する 報告しない	報告しない
その他							
先進的技術の導入	技術の名称			考慮事項			
特に配慮した事項	BPI _m =0.61。 [BEI _m] = 0.41 ライフサイクルCO2排出率70%						